

(2) 外陰部の変化

外陰部の腫脹、軟化が認められます。妊娠後半には、外陰部から硬い粘液の漏出が認められます。尻尾に付着するので「尾がらみ」と呼ばれます。分娩が近づくと子宮頸管外口部の粘液も軟化し、発情時の粘液のように外陰部から下垂して認められます（写真8）。

写真8 牛の分娩前の外陰部の変化



分娩1週間前。外陰部から硬い粘液の漏出が認められる。



分娩当日。外陰部は弛緩し、透明な糸を引くような粘液の漏出が認められる。

分娩当日には粘液中に出血を認める場合もあります。出血を認めても、出血量が少ない場合は胎子への影響ほとんどありません。出血量の多い場合は、胎盤の早期剥離や産道における血管の損傷が考えられるので、獣医師の診察を受ける必要があるでしょう。こうした外陰部の腫脹や軟化あるいは粘液の所見は、分娩が近づくとつれ次第に進行しますが、個体差が大きいために、分娩を正確に予知することは困難です。

(3) 子宮外口部の変化

外陰部の軟化に伴い子宮外口部も徐々に拡張します。分娩2～3日前には2～3指幅となり、分娩当日は開口期陣痛とともに4指幅以上へと急速に拡張します。こうした子宮外口の拡張は、分娩の開始を確認するのに役立ちます。

このように、分娩の進行を確認するために産道に手を挿入する場合には、外陰部周辺の消毒および手指の消毒を行い、直腸検査用手袋などを装着し、子宮内の汚染を防ぐ必要があります。

(4) 仙坐靭帯の弛緩

分娩2週間前頃より徐々に骨盤の靭帯が弛緩します。分娩1日前には急激に尾根部の両側が弛緩し、分娩直前には尾根部は軟化陥没し、尾力の減退が認められます。前日よりも5mm以上弛緩した場合、24時間以内に分娩する確率は96.4%とされています（写真9）。